

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11)実用新案出願公開番号

実開平5-71191

(43)公開日 平成 5 年(1993) 9月24日

(51)Int.Cl.⁸

B 6 5 D 85/57

識別記号

庁内整理番号

D 7445-3E

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 5 (全 3 頁)

(21)出願番号 実願平4-18112

(22)出願日 平成 4 年(1992) 2月27日

(71)出願人 592068093

システムティック株式会社

東京都国分寺市光町 1 丁目38番 7

(72)考案者 小林 憲郎

東京都港区赤坂 8 丁目12番 4 号

(72)考案者 田中 堅四郎

東京都武蔵野市西久保 3 丁目 8 番10号

(72)考案者 水谷 紀雄

東京都新宿区大久保 2 丁目14番 8 号

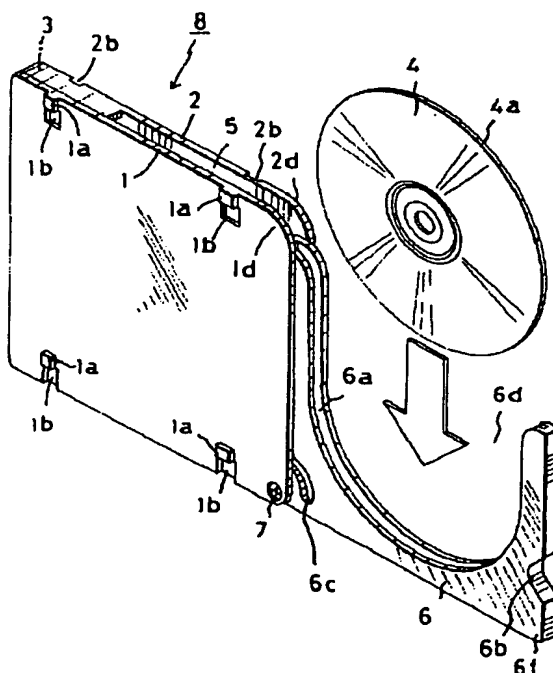
(74)代理人 弁理士 中川 周吉 (外 1 名)

(54)【考案の名称】 記憶媒体収納ケース

(57)【要約】

【目的】記憶媒体を裸体のまま取り出し易く保持すると共に、複数の記憶媒体を省スペースに整列性良く縦置きして検索を容易に収納すること。

【構成】側板 1, 2 間に形成された収納部 5 に回動可能に取り付けられたアーム 6 を取り出して、CD 4 の周面付近に形成されている無録音部分 4 a を上記アーム 6 の開口部 6 d より溝 6 a に沿って上方から差し込むことにより、CD 4 を裸体のまま保持することができ、この状態でアーム 6 を反時計回り方向に回動させて収納部 5 に収納することができる。また他の CD 収納ケース 8 と側面 1, 2 に夫々設けた突起 1 a, 2 a を係合させることにより、複数の CD 収納ケース 8 を幅方向に連結して縦置きすることができる。



1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 左右に設けた側板を連結することにより記憶媒体の収納部を形成し、前記収納部に記憶媒体を裸体のまま保持可能な保持部材を回動可能に取り付けたことを特徴とする記憶媒体収納ケース。

【請求項2】 前記保持部材は溝を形成したアームを用い、このアームは記憶媒体の無記憶部分を両側より保持することを特徴とする請求項1記載の記憶媒体収納ケース。

【請求項3】 前記保持部材は底部が幅狭な溝を形成したアームを用い、このアームは記憶媒体の無記憶部分を線接触により保持することを特徴とする請求項2記載の記憶媒体収納ケース。

【請求項4】 前記左右の側板には、他の側板に設けた突起と係合可能な複数の突起を形成したことを特徴とする請求項1記載の記憶媒体収納ケース。

【請求項5】 前記左右の側板に突設した突起どうしを係合して複数のケースを幅方向に連結した請求項4記載の記憶媒体収納ケース。

【図面の簡単な説明】

【図1】 C D収納ケースのアームを取り出した状態を示す斜視説明図である。

【図2】 C D収納ケースの断面図及びアームの断面説明図である。

10

20

*

2

*【図3】 C D収納ケースの正面図、背面図、左右側面図、平面図、及び底面図である。

【図4】 C D収納ケースを複数個連結して収納する場合の説明図である。

【符号の説明】

1, 2…側板

1 a, 2 a, 3 a…突起

1 b, 2 b…穴

1 c…ピン

1 d, 2 d, 6 f…コーナー部

3…背板

4…C D

4 a…無録音部分

5…収納部

6…アーム

6 a…溝

6 b…窪み

6 c…円弧状溝

6 d…開口部

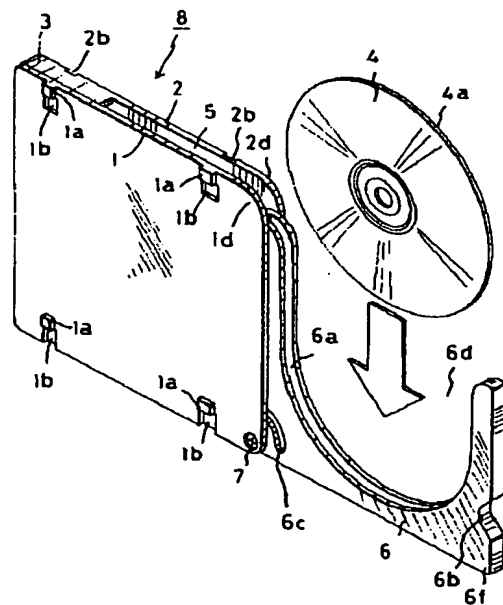
6 e…切り込み

6 g…切欠

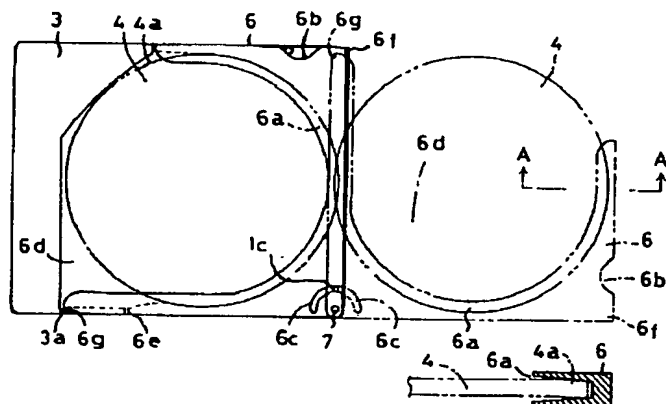
7…ビス

8…C D収納ケース

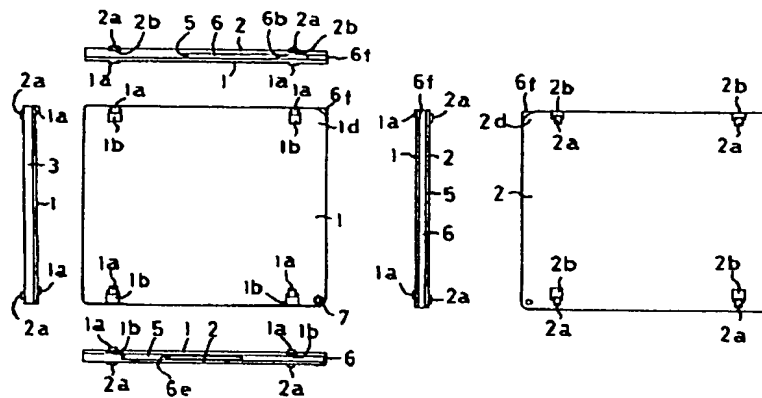
【図1】



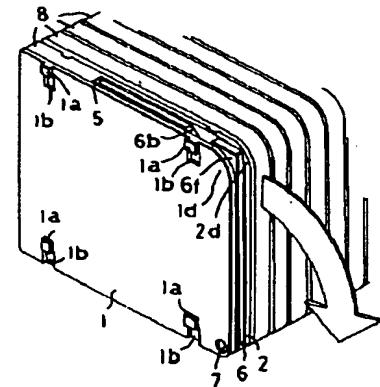
【図2】



【図3】



【図4】



【手続補正書】

【提出日】平成4年12月16日

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】請求項5

【補正方法】変更

【補正内容】

【請求項5】前記左右の側板に突設した突起どうしを係合して複数のケースを幅方向に連結した請求項4記載の記憶媒体収納ケース。

【考案の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本考案は、主としてコンパクトディスク等の記憶媒体を裸体のまま収納する記憶媒体収納ケースに関するものである。

【0002】

【従来技術】従来、コンパクトディスク等の記憶媒体を収納するケースとしては、記憶媒体を裸体のまま筐体状の付属ケースに収納し、蓋を手動により開閉して取り出し或いは収納するケースが一般に用いられている。例えばコンパクトディスクにあっては、一般に薄肉の円形状に成形されており、中心部に設けられた穴を付属ケース収納部に設けられた対応する突起に嵌合させて保持するように構成されている。

【0003】

【考案が解決しようとする課題】しかしながら、上記従来技術に示すケースにおいては、記憶媒体は一般に薄肉に成形されており、これを収納部から把持して取り出し難く、また取り出す際に誤って記憶部分をケース等で擦って破損するおそれがあった。

【0004】また特にコンパクトディスクの場合、1ケース内に収納可能な枚数としては原則として1～2枚程度であり、従って複数のコンパクトディスクを付属ケースごと保持する場合には収納スペースを要する。また付属ケースを複数個並べて縦置きして保存する場合には、1ケース毎に取り出して蓋を開閉して所望のコンパクトディスクを取り出す必要があり、取り出しに手間がかかると共に手際よく整列して元の状態に保存することは困難であった。

【0005】更に、記憶媒体を取り出した後のケースの整列状態が維持できないと、次に必要な記憶媒体の検索に手間がかかる場合があった。

【0006】本考案の目的は前記従来技術の課題を解決し、記憶媒体を裸体のまま取り出し易く保持すると共に、複数の記憶媒体を省スペースに整列性良く縦置きしてしかも検索を容易に収納可能な記憶媒体収納ケースを提供することにある。

【0007】

【課題を解決するための手段】 上記従来技術の課題を解決し、以下に述べる実施例に適用される代表的な手段は、左右に設けた側板を連結することにより記憶媒体の収納部を形成し、前記収納部に裸体のまま記憶媒体を保持可能な保持部材を回動可能に取り付けたことを特徴とする。

【0008】

【作用】 上記構成によれば、保持部材に記憶媒体を裸体のまま保持させておき、必要に応じて前記保持部材を回動させることにより、記憶媒体を容易に収納或いは取り出すことができる。また前記保持部材は記憶媒体の無記憶部分を両側より保持することにより記憶媒体を傷つけることなく保持することができる。更に前記左右の側板に設けた突起と、他の側板に設けた突起どうしを係合して複数のケースを幅方向に連結することにより縦置き可能となり、省スペースに複数の記憶媒体を整列性よく収納することができ、また必要な記憶媒体を検索するのが容易となる。

【0009】

【実施例】 次に前記手段を記憶媒体収納ケースに適用した本考案の一実施例を説明する。本実施例は、記憶媒体としてコンパクトディスク（以下、単に「CD」と言う）を収納するCD収納ケースについて説明する。図1はCD収納ケースのアームを取り出した状態を示す斜視説明図、図2は上記CD収納ケースの断面図及びアームの断面説明図、図3は上記CD収納ケースの正面図、背面図、左右側面図、平面図、及び底面図、図4は上記CD収納ケースを複数個連結して収納する場合の説明図である。

【0010】 先ず図1乃至図3を参照してCD収納ケースの概略構成を説明する。1, 2は左右側板であって、これらは図2に示す背板3を介して貼り合わされており、上記左右側板1, 2間に記憶媒体であるCD4の収納部5を形成されている。また、図3に示すように上記左右側板1, 2の上下端部には4箇所に突起1a, 2a及びこれに隣接する穴1b, 2bが夫々形成されている。上記突起1aは穴2bに、突起2aは穴1bに夫々嵌合させて上下方向にスライドさせることにより突起1aと突起2aを係合させることができるように構成されており、これによって後述するように他のCD収納ケースを幅方向に複数個連結する

ことが可能に構成されている。

【0011】上記収納部5には、CD4を裸体のまま保持するための保持部材であるアーム6が取り付けられている。上記アーム6は、上記側板1、2のコーナー部に設けたビス7を介して回動可能に取り付けられている。上記アーム6は水平方向に対して垂直上方に開口部6dを形成した側面形状がU字状に成形されており、上記CD4を保持する開口部6d側の周面部分には、幅約2mmの溝6aが形成されている。この溝6aの底部は図2のA-A拡大図に示すように開口部6d方向より幅狭に成形されており、厚さ約1mmのCD4の無録音部分4aの縁を線接触によって支持するように構成されている。また上記溝6aの深さは、上記CD4の無録音部分4aを両側より保持し得る程度の深さに形成されている。更に上記アーム6の開口部6dの間隔は、CD4の直径よりやや狭く成形されており、図2に示すようにCD4を開口部6dより差し込む際に溝6aの底部が逃げて差し込み易いように切り込み6eが形成されている。

【0012】従って、上記CD4をアーム6に保持した状態では、開口部6dの間隔がCD4の直径よりやや狭くなっていることから、CD4が開口部6dより容易に抜け出ることはなく、CD4をがたつくことなく安定した状態で保持可能であり、また無録音部分4aを支持するためCD4の録音部分を擦って破損するおそれもない。

【0013】また上記アーム6の周面には窪み6bが形成されており、更に図3に示すように上記側板1及び側板2の上側コーナー部1d、2dは、アーム6を収納部5に収納した場合に対応するアーム6のコーナー部6fより滑らかに成形されている。上記コーナー部6fはコーナー部1d、2dより突出しているため、上記収納部5に収納されたアーム6をコーナー部6fから窪み6bに渡って指を掛けて回動させ易いように構成されている。

【0014】また、図1及び図2に示すように、上記アーム6の回動中心であるビス7の周辺には、円弧状溝6cが形成されており、側板1の収納部5側に設けたピン1cが嵌入するように構成されている。これによって、アーム6の回動する範囲はピン1cが円弧状溝6cの端部に係止する図2の実線で示す収納状態から、二点鎖線で示す取り出し状態までに規制される。更に、図2に示すように上

記アーム6の背板3側の先端部には切欠6gが形成されており、アーム6を収納部5に収納した際に対応する背板3に設けられた突起3aに係止するように構成されている。

【0015】尚、上記側板1、2、アーム6はABS樹脂等のプラスチック樹脂で安価に構成することが可能である。また本実施例におけるCD収納ケース自体の幅は約8mmであり、従来の付属ケース（約10mm）に比べてケース自体を薄くすることができる。従って、従来のケースに比べて小型、軽量にして持ち運びに便利であり、かつ収納スペースを省略することができる。

【0016】上述のように構成されたCD収納ケース8を使用する場合には、図2の実線で示す収納状態から、アーム6の窪み6bに指をかけてこれをビス7を中心に手前（図面時計回り方向）に回動させて、図2の二点鎖線で示すようにアーム6は90度回転した位置でピン1cが円弧状溝6cに係止して停止する。

【0017】この状態で、図1に示すように、CD4の周面付近に形成されている無録音部分4aをアーム6の開口部6dより溝6aに沿って上方から差し込むことにより、CD4を裸体のまま保持することができ、この状態でアーム6を逆に収納部5方向（図面反時計回り方向）に回動させて、アーム6はピン1cが円弧状溝6cに、切欠6gが突起3aに夫々係止して停止して収納部5に収納される。

【0018】尚、上記CD4を保持したままアーム6を収納部5に収納した状態では、CD4の取り出し方向がほぼ水平方向（開口部6dが水平方向）となるが、前述したように溝6aの間隔が開口部6d側でCD4の直径より狭くなっていることから、CD4が抜け出ることはなく、しかも側板1と側板2を貼り合わせる背板3の形状をCD4の無録音部の円弧形状に合わせて成形しておくことにより、収納状態においてCD4ががたつくことなく保持することができる。

【0019】また複数のCD4をCD収納ケース8に夫々収納した状態で保持する場合には、図4に示すように、隣り合う側板1、2に夫々設けた突起1aを穴2bに、突起2aを穴1bに夫々嵌合させて上下方向にスライドさせることにより突起1aと突起2aに係合させることができ、これによって、複数のCD収納ケース8を幅方向に連結して保持することができ、しかも縦置きが可能となる。

この場合には、所望のCD4を検索して取り出す場合に検索作業が容易であり、しかも検索後のCD収納ケース8の整列性を乱すこともないため使い勝手に優れている。尚、検索にあたっては、上記アーム6の周面にシール等を貼着しておくことにより、その効率を高めることができる。

【0020】上記構成によれば、アーム6にCD4を裸体のまま保持させておき、必要に応じて前記アーム6を回動させることにより、CD4を容易に収納或いは取り出すことができる。また前記アーム6はCD4の無録音部分4aを両側より保持することによりCD4を傷つけることなく保持することができる。更に前記左右の側板1, 2には、他の側板に設けた突起と係合可能な複数の突起を設けてあるので、これらの突起どうしを係合して複数のCD収納ケース8を幅方向に連結することにより縦置き可能となり、省スペースに複数の記憶媒体を整列性よく収納することができ、また必要なCD4を検索するのが容易となる。更には従来のケースに比べて小型、軽量にして持ち運びに便利であり、かつ収納スペースを省略することができる。

【0021】尚、本実施例は記憶媒体としてコンパクトディスク（CD）を用いて説明したが、これに限定されるものではなく、フロッピーディスク（FD）、レーザーディスク（LD）等の記憶媒体について適応することも可能である。

【0022】

【考案の効果】本考案は前述したように、保持部材に記憶媒体を裸体のまま保持させておき、必要に応じて前記保持部材を回動させることにより、記憶媒体を容易に収納或いは取り出すことができる。また前記保持部材は記憶媒体の無記憶部分を両側より保持することにより記憶媒体を傷つけることなく保持することができる。更に左右の側板には、他の側板に設けた突起と係合可能な複数の突起を設けてあるので、これらの突起どうしを係合して複数の記憶媒体収納ケースを幅方向に連結することにより縦置き可能となり、省スペースに複数の記憶媒体を整列性よく収納することができ、また必要な記憶媒体を検索するのが容易となる。更には従来のケースに比べて小型、軽量にして持ち運びに便利であり、かつ収納スペースを省略することができる。

【提出日】平成4年12月16日

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】考案の詳細な説明

【補正方法】変更

【補正内容】

【考案の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】

本考案は、主としてコンパクトディスク等の記憶媒体を裸体のまま収納する記憶媒体収納ケースに関するものである。

【0002】

【従来の技術】

従来、コンパクトディスク等の記憶媒体を収納するケースとしては、記憶媒体を裸体のまま筐体状の付属ケースに収納し、蓋を手動により開閉して取り出し或いは収納するケースが一般に用いられている。例えばコンパクトディスクにあっては、一般に薄肉の円形状に成形されており、中心部に設けられた穴を付属ケース収納部に設けられた対応する突起に嵌合させて保持するように構成されている。

【0003】

【考案が解決しようとする課題】

しかしながら、上記従来技術に示すケースにおいては、記憶媒体は一般に薄肉に成形されており、これを収納部から把持して取り出し難く、また取り出す際に誤って記憶部分をケース等で擦って破損するおそれがあった。

【0004】

また特にコンパクトディスクの場合、1ケース内に収納可能な枚数としては原則として1～2枚程度であり、従って複数のコンパクトディスクを付属ケースごと保持する場合には収納スペースを要する。また付属ケースを複数個並べて縦置きして保存する場合には、1ケース毎に取り出して蓋を開閉して所望のコンパク

トディスクを取り出す必要があり、取り出しに手間がかかると共に手際よく整列して元の状態に保存することは困難であった。

【0005】

更に、記憶媒体を取り出した後のケースの整列状態が維持できないと、次に必要な記憶媒体の検索に手間がかかる場合があった。

【0006】

本考案の目的は前記従来技術の課題を解決し、記憶媒体を裸体のまま取り出し易く保持すると共に、複数の記憶媒体を省スペースに整列性良く縦置きしてしかも検索を容易に収納可能な記憶媒体収納ケースを提供することにある。

【0007】

【課題を解決するための手段】

上記従来技術の課題を解決し、以下に述べる実施例に適用される代表的な手段は、左右に設けた側板を連結することにより記憶媒体の収納部を形成し、前記収納部に裸体のまま記憶媒体を保持可能な保持部材を回動可能に取り付けたことを特徴とする。

【0008】

【作用】

上記構成によれば、保持部材に記憶媒体を裸体のまま保持させておき、必要に応じて前記保持部材を回動させることにより、記憶媒体を容易に収納或いは取り出すことができる。

また前記保持部材は記憶媒体の無記憶部分を両側より保持することにより記憶媒体を傷つけることなく保持することができる。

更に前記左右の側板に設けた突起と、他の側板に設けた突起どうしに係合して複数のケースを幅方向に連結することにより縦置き可能となり、省スペースに複数の記憶媒体を整列性よく収納することができ、また必要な記憶媒体を検索するのが容易となる。

【0009】

【実施例】

次に前記手段を記憶媒体収納ケースに適用した本考案の一実施例を説明する。

本実施例は、記憶媒体としてコンパクトディスク（以下、単に『CD』と言う）を収納するCD収納ケースについて説明する。図1はCD収納ケースのアームを取り出した状態を示す斜視説明図、図2は上記CD収納ケースの断面図及びアームの断面説明図、図3は上記CD収納ケースの正面図、背面図、左右側面図、平面図、及び底面図、図4は上記CD収納ケースを複数個連結して収納する場合の説明図である。

【0010】

先ず図1乃至図3を参照してCD収納ケースの概略構成を説明する。1、2は左右側板であって、これらは図2に示す背板3を介して貼り合わされており、上記左右側板1、2間に記憶媒体であるCD4の収納部5を形成されている。また、図3に示すように上記左右側板1、2の上下端部には4箇所突起1a、2a及びこれに隣接する穴1b、2bが夫々形成されている。突起1aは穴2bに、突起2aは穴1bに夫々嵌合させて上下方向にスライドさせることにより突起1aと突起2aに係合させることができるように構成されており、これによって後述するように他のCD収納ケースを幅方向に複数個連結することが可能に構成されている。

【0011】

上記収納部5には、CD4を裸体のまま保持するための保持部材であるアーム6が取り付けられている。上記アーム6は、上記側板1、2のコーナー部に設けたビス7を介して回動可能に取り付けられている。上記アーム6は水平方向に対して垂直上方に開口部6dを形成した側面形状がU字状に成形されており、上記CD4を保持する開口部6d側の周面部分には、幅約2mmの溝6aが形成されている。この溝6aの底部は図2のA-A拡大図に示すように開口部6d方向より幅狭に成形されており、厚さ約1mmのCD4の無録音部分4aの縁を線接触によって支持するように構成されている。また上記溝6aの深さは、上記CD4の無録音部分4aを両側より保持し得る程度の深さに形成されている。更に上記アーム6の開口部6dの間隔は、CD4の直径よりやや狭く成形されており、図2に示すようにCD4を開口部6dより差し込む際に溝6aの底部が逃げて差し込み易いように切り込み6eが形成されている。

【0012】

従って、上記CD4をアーム6に保持した状態では、開口部6dの間隔がCD4の直径よりやや狭くなっていることから、CD4が開口部6dより容易に抜けることはなく、CD4をがたつくことなく安定した状態で保持可能であり、また無録音部分4aを支持するためCD4の録音部分を擦って破損するおそれもない。

【0013】

また上記アーム6の周面には窪み6bが形成されており、更に図3に示すように上記側板1及び側板2の上側コーナー部1d、2dは、アーム6を収納部5に収納した場合に対応するアーム6のコーナー部6fより滑らかに成形されている。上記コーナー部6fはコーナー部1d、2dより突出しているため、上記収納部5に収納されたアーム6をコーナー部6fから窪み6bに渡って指を掛けて回動させ易いように構成されている。

【0014】

また、図1及び図2に示すように、上記アーム6の回動中心であるビス7の周辺には、円弧状溝6cが形成されており、側板1の収納部5側に設けたピン1cが嵌入するように構成されている。これによって、アーム6の回動する範囲はピン1cが円弧状溝6cの端部に係止する図2の実線で示す収納状態から、二点鎖線で示す取り出し状態までに規制される。更に、図2に示すように上記アーム6の背板3側の先端部には切欠6gが形成されており、アーム6を収納部5に収納した際に対応する背板3に設けられた突起3aに係止するように構成されている。

【0015】

尚、上記側板1、2、アーム6はABS樹脂等のプラスチック樹脂で安価に構成することが可能である。また本実施例におけるCD収納ケース自体の幅は約8mmであり、従来の付属ケース（約10mm）に比べてケース自体を薄くすることができる。従って、従来のケースに比べて小型、軽量にして持ち運びに便利であり、かつ収納スペースを省略することができる。

【0016】

上述のように構成されたCD収納ケース8を使用する場合には、図2の実線で示す収納状態から、アーム6の窪み6bに指をかけてこれをビス7を中心に手前（図面時計回り方向）に回動させて、図2の二点鎖線で示すようにアーム6は90度回転した位置でピン1cが円弧状溝6cに係止して停止する。

【0017】

この状態で、図1に示すように、CD4の周面付近に形成されている無録音部分4aをアーム6の開口部6dより溝6aに沿って上方から差し込むことにより、CD4を裸体のまま保持することができ、この状態でアーム6を逆に収納部5方向（図面反時計回り方向）に回動させて、アーム6はピン1cが円弧状溝6cに、切欠6gが突起3aに夫々係止して停止して収納部5に収納される。

【0018】

尚、上記CD4を保持したままアーム6を収納部5に収納した状態では、CD4の取り出し方向がほぼ水平方向（開口部6dが水平方向）となるが、前述したように溝6aの間隔が開口部6d側でCD4の直径より狭くなっていることから、CD4が抜け出すことはなく、しかも側板1と側板2を貼り合わせる背板3の形状をCD4の無録音部の円弧形状に合わせて成形しておくことにより、収納状態においてCD4ががたつくことなく保持することができる。

【0019】

また複数のCD4をCD収納ケース8に夫々収納した状態で保持する場合には、図4に示すように、隣り合う側板1、2に夫々設けた突起1aを穴2bに、突起2aを穴1bに夫々嵌合させて上下方向にスライドさせることにより突起1aと突起2aに係合させることができ、これによって、複数のCD収納ケース8を幅方向に連結して保持することができ、しかも縦置きが可能となる。この場合には、所望のCD4を検索して取り出す場合に検索作業が容易であり、しかも検索後のCD収納ケース8の整列性を乱すこともないため使い勝手に優れている。尚、検索にあたっては、上記アーム6の周面にシール等を貼着しておくことにより、その効率を高めることができる。

【0020】

上記構成によれば、アーム6にCD4を裸体のまま保持させておき、必要に応

じて前記アーム6を回動させることにより、CD4を容易に収納或いは取り出すことができる。また前記アーム6はCD4の無録音部分4aを両側より保持することによりCD4を傷つけることなく保持することができる。更に前記左右の側板1, 2には、他の側板に設けた突起と係合可能な複数の突起を設けてあるので、これらの突起どうしを係合して複数のCD収納ケース8を幅方向に連結することにより縦置き可能となり、省スペースに複数の記憶媒体を整列性よく収納することができ、また必要なCD4を検索するのが容易となる。更には従来のケースに比べて小型、軽量にして持ち運びに便利であり、かつ収納スペースを省略することができる。

【0021】

尚、本実施例は記憶媒体としてコンパクトディスク（CD）を用いて説明したが、これに限定されるものではなく、フロッピーディスク（FD）、レーザーディスク（LD）等の記憶媒体について適応することも可能である。

【0022】

【考案の効果】

本考案は前述したように、保持部材に記憶媒体を裸体のまま保持させておき、必要に応じて前記保持部材を回動させることにより、記憶媒体を容易に収納或いは取り出すことができる。

また前記保持部材は記憶媒体の無記憶部分を両側より保持することにより記憶媒体を傷つけることなく保持することができる。

更に左右の側板には、他の側板に設けた突起と係合可能な複数の突起を設けてあるので、これらの突起どうしを係合して複数の記憶媒体収納ケースを幅方向に連結することにより縦置き可能となり、省スペースに複数の記憶媒体を整列性よく収納することができ、また必要な記憶媒体を検索するのが容易となる。

更には従来のケースに比べて小型、軽量にして持ち運びに便利であり、かつ収納スペースを省略することができる。